

**令和6年度 第1回
国立大学法人北海道大学総長選考・監察会議議事要旨**

日 時 令和6年6月17日（月）15:13～16:52

場 所 北海道大学事務局 中会議室 A

出席者 9名

（学外） 杉江、サコ、小坂、三輪 各委員

（学内） 尾崎、網塚、畠山、野口、居城 各委員

欠席者 1名

（学外） 渡辺 委員

オブザーバー

山口理事、山本理事、瀬戸口理事、甲田理事、高橋監事、石川監事

配付資料

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 総長選考における教職員の意向聴取 |
| 2 | 職員数一覧 |
| 3 | 候補者の推薦方法 |
| 4 | 総長予定者の決定プロセスについて |
| 5 | 望まれる総長像（案） |
| 6 | 令和6年度「総長の業務執行状況の確認」方法 |

議 事

議事に先立ち、委員の紹介があった後、事務局から、会議の概要について説明があった。引き続き、令和5年度第5回総長選考・監察会議の議事要旨について確認があった。

【 議 題 】

1 総長選考における教職員の意向聴取について

事務局から、資料1及び資料2に基づき、総長選考における教職員の意向聴取について説明があった後、意見交換が行われ、次回以降の会議で引き続き審議することとなった。

(主な意見)

- ・「投票」という言葉が使われると、自分たちに権利があるように聞こえる。何のために意向聴取するのかを明確に伝えないと誤った受け取り方をされてしまうため、言葉使いを整理するとよい。

2 総長選考における候補者の推薦方法について

事務局から、資料3に基づき、総長選考における候補者の推薦方法について説明があった後、意見交換が行われ、次回以降の会議で引き続き審議することとなった。

(主な意見)

- ・学外の候補者を推薦するプロセスについて整理が必要である。
- ・本会議の学外委員は学外の候補者を推薦するという観点はあるかもしれないが、学内委員が推薦できることについては違和感がある。
- ・本会議の委員が推薦人となることについては選考する立場という権限の面からも検討の必要がある。
- ・本会議の委員は推薦者に名を連ねることはいいのか、という点も議論が必要である。
- ・教育研究評議会や経営協議会の会議体が推薦母体となる場合に、影響力が過剰になるという懸念については、それぞれの会議から候補者を5名出してもらうなどの対応案が考えられる。
- ・学内から候補者が誰も出ないという時のために学外から推薦する規定は決めておいた方がよいと考える一方で、学内の候補者と学外の候補者が並んだ際に同列に選考できるかという懸念もある。
- ・法令等における総長選考・監察会議の設置の趣旨を鑑みると、本会議から候補者を積極的に挙げて大学を導くべきだというスタンスがあると考えられる。
- ・「推薦人」と「推薦者」という言葉がわかりにくいため文言の整理をしたほうがよい。
- ・候補者が推薦人になることを排除できるかが規定からは読み取れな

いため定義が必要ではないか。

3 総長予定者の決定プロセスについて

事務局から、資料4に基づき、総長予定者の決定プロセスについて説明があった後、意見交換が行われ、次回以降の会議で引き続き審議することとなった。

(主な意見)

- ・昨今の民主主義の一つの傾向として籤引きによる決定というのも一定の合理性があるという議論がある。

4 望まれる総長像の公表について

事務局から、資料5に基づき、望まれる総長像の公表について説明があり、引き続き審議することとなった。

【 報 告 】

1 部局長等連絡会議への報告結果について

事務局から、5月15日開催の部局長等連絡会議への報告結果について報告があった。

2 令和6年度に実施する総長の業務執行状況の確認方法及びスケジュールについて

事務局から、資料6に基づき、令和6年度に実施する総長の業務執行状況の確認方法及びスケジュールについて報告があった。

(以 上)